

研究名：肺癌切除例にみられる類上皮細胞性肉芽腫と肺非結核性抗酸菌症

利用する診療情報：以下の基準に合致した患者さんの診療情報

- ・当院の肺癌データベース（1998年～2021年）に登録されている、肺癌切除症例
- ・切除肺に評価可能な非癌部が含まれ、病理組織学的評価がなされている症例
- ・切除前後の臨床経過が検討できる症例
- ・X線、CT等の画像データ、抗酸菌培養データの解析が可能な症例

研究責任者：呼吸器内科 統括診療部長 田村厚久

研究の意義・目的・方法：

近年、肺非結核性抗酸菌症が急増しており、肺癌手術を行う患者さんにおいても肺非結核性抗酸菌症を合併している場合が経験されるようになっています。手術材料における類上皮細胞性肉芽腫（肺非結核性抗酸菌症に特徴的な病理所見です）の存在と肺非結核性抗酸菌症の関係を調べることは肺癌患者さんの診療に役立つと考えています。

研究計画書等の公表：

この研究に関連した各種データについて知りたい場合は、担当医師を通じてその情報の開示を求めることができます。また、ご希望があれば、研究計画書や研究の方法に関する資料を閲覧したり、ご提供することも可能ですが。ただし、他の患者さんの個人情報など、情報の種類によっては開示できないものがあります。ご不明な点がございましたら担当医師にご相談ください。